

「第33回 廃棄物資源循環研究発表会」 市民展示、ミニ発表会報告

第33回廃棄物資源循環学会研究発表会は、前日に台風の影響を受け、参加者が危ぶまれましたが、無事2022年9月20～22日にハイブリッドで宮崎大学にて開催されました。市民団体等8団体の活動が、一般公開で紹介されました。9月20日には、市民フォーラム「使い捨ておむつの使用抑制 & 持続可能な社会に向けた取り組み」をテーマに消費者市民部会から発表されました。今回、市民展示からは、NPO法人「みやざきエコの会」および「宮崎友の会」の活動をご紹介します。

宮崎市における 小学生への環境教育

NPO法人「みやざきエコの会」
ひだかのぶゆき
日高 信行
理事長

「みやざきエコの会」とは

宮崎市は市民を対象に2002（平成14）年から2006（平成18）年まで五カ年計画で「宮崎市ごみ問題海外研修派遣事業」を実施し、公募で選ばれた約100名の宮崎市民がドイツを中心に、フランス、デンマークなどで、11日間に渡り、研修を受けました。第1回海外研修より帰国した団員（1期20名）は、研修で得た体験や知識を宮崎市へ還元しようと任意団体「みやざきエコ会議」を立ち上げ、その後、研修を終えた2～5期の団員が加わり、さまざまなフォーラムやごみ減量、地球温暖化防止などの環境活動を行いました。

2008（平成20）年4月、研修団員で構成されていた活動を市民に広げ、多



写真1 綾第二発電施設見学会

くの方が参加できる団体として「特定非営利活動法人みやざきエコの会」を設立しました。市民の立場から環境に対する問題提起と解決策を図りながら、市民皆が等しく快適な環境の中で生活できる「環境都市みやざき」の実現に向け、新たな活動を始めました。

主な活動・事業内容

①「宮崎県環境情報センター」受託運営 (2009（平成21）～2020（令和2）年度)

県内における自然や環境問題に対する知識・情報・普及・教育・学習活動を支援する情報発信の拠点となるセンター運営を12年間にわたり受託運営しました。

現在は同センターと連携した環境保全活動を実施しています（写真1）。

②「宮崎市子ども5R学習事業」受託運営 (2010（平成22）～2022（令和4）年度継続中)

宮崎市は市民に対し5Rを推奨しており、市内の小学4年生を対象に5R学習事業「買い物ゲーム」を実施しています。

宮崎市子ども5R学習事業「買い物ゲーム」とは

〈概要〉身近な「ごみ問題」をテーマに宮崎市内の小学4年生を対象としたゲーム形

式の授業です。「買い物」を疑似体験させることで「ごみ」の発生に気づかせ、減量について考える場を提供します。

〈内容〉食材に必要な“容器”ですが、扱い方によっては「ごみ」になります。身近な普段の生活の中に環境問題が潜んでいるのです。

100分の5R学習授業（買い物ゲーム）が未来を担う子ども達の「ごみ」に対する考えを大きく変える機会となります。

〈テーマは「ごみ」〉「ごみ」を減らすためには何かを考えたり、始めたり、断ったり、意識して行動しなければなりません。そのためには『ごみを減らしたい』という気持ちをもつことが大切です。しかも、それは“強制”ではなく、心の内から湧きあがってきたものであることが理想です。

それには「ごみ問題」にきちんと気づき、問題と向き合うことが必要となります。そうした問題に楽しく「気づく」ことができるように考えられたのが「買い物ゲーム」です。

〈設定は「カレー作り」〉本物そっくりに描かれたイラストの材料キットを使った「疑似店舗」内でカレー作りに必要な材料を買います。クラスを1グループ4～6名に分け、それぞれのグループごとにカレーの材料を買い揃えます。

〈ワークショップ型の学習プログラム〉「ごみ」の現状がわかったら「ごみ」を減らすための工夫を考えます。

アイデアを個々で考え一人ずつ発表です。そして、2回目の買い物。



写真2 「どれにしようかな!」



写真3 買い物でたくさんのごみが発生します

1回目の買い物ではたくさん「ごみ」が出ました。2回目はできるだけ「ごみ」が出ないように買い物をします。

「買い物ゲーム」の流れ

1.導入

オリエンテーションから始まります。模擬店を開店し、ルールや注意事項を説明します。

2.体験（1回目の買い物）

残ったお金の多いほうが勝ち。それぞれのチームが作戦をたて、できるだけ安い買い物をします（写真2）。

3.気づき

パネルシアターで「ごみ処理」の流れを学習、ごみの処分にはこんなにお金がかかっています（写真3）。

4.思考

5Rを理解。「学校・家庭・買い物」でごみを減らすアイデアを考えます。

5.体験（2回目の買い物）

2回目の買い物は学習したことを念頭に、なるべくごみが出ない買い物を心がけます。

6.ふりかえり

「ふりかえり」でゲームの感想や意見交換をします。改めて日々の生活の中でたくさんのごみが出ていることを学びました（写真4）。

年間実施校（クラス数）

減らしたごみの数

2021（令和3）年度に「買い物ゲーム」を実施した学校数は31校、クラス数は76クラスでした。



写真4 ふりかえりで再学習！



©2023 日高 信行 この記事はクリエイティブ・コモンズ [表示 - 非営利 4.0 国際] ライセンスの下に提供されています。 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja>

普段の買い物の要領で買い物をしたときに「ごみ」の数は1回目が「8,728個」、5R授業を受けた2回目の買い物では「2,734個」となり、年度累計で減らした「ごみ」の数は「5,994個」でした。

おわりに

宮崎市では、年間約2,000人の小学4年生が、この5R授業（買い物ゲーム）を学びます。

事業は今年で13年目に入り、これま

でに約26,000人の子ども達が5R授業を受けたこととなります。

未来を担う子ども達が環境マインドをもった大人になり、より住みやすい生活環境をつくっていくことは、本団体の活動目的でもある「環境都市みやざき」の実現とも合致するものです。

この「宮崎市子ども5R学習事業」は、市教育委員会をはじめ当該小学校からも高い評価を受けており、今後も継続して宮崎市の環境教育に取り組んでまいります。

私達のSDGs

宮崎友の会 **湯浅 ヨシ子**

「日々生活していくなかでの取り組みについて」

私達はいつから「ポイと捨てる」生活スタイルになったのでしょうか。ここは踏み止まって「ポイと捨てる」生活習慣を止めたいと思います。

1903年、羽仁もと子・吉一夫妻が「よい家庭から、よい社会を作りたい」という思いから「婦人之友」を創刊しました。1930年よりその愛読者の会として生まれたのが全国友の会です。海外を含め全国に14,000人の会員がいます。衣・食・住・家計・子どものことと、生活全般について学んでいます。今日はその中から「ごみ問題」について報告します。

ごみ問題の最大の課題は川や海に流れ出ている「プラスチックごみ」だと思っています。2019年宮崎友の会も1年間この問題に取り組みました。

1. ペットボトル…マイボトルを持参する。
2. 買い物袋…マイバックにする。



写真1 学会研究会発表会市民展示の様子

3. 歯磨き粉等の容器入り…詰め換え容器を利用する。
4. 外においてあるポリバケツ、プランター、洗濯バサミ等…アルミ製や竹、木でできたものを利用する。
5. 衣類…綿製品を購入する。
6. ラップのかわりに「蜜蠟ラップ」を利用する。
ミツバチの巣を利用して作るので、食品にふれても大丈夫です。ただし、熱に弱いので要注意です。
蜜蠟ラップを利用したり、容器で保存するなどしてラップの使用を減らしたいと思います。親子で作りましたが、使い勝手よくできあがりました。
7. 台所で使うスポンジ類をポリ以外でできたものを使用する。絹でタワシを作ったり、綿糸を編んで作ったりしま

す。晒しや亀の子タワシ・ヘチタワシも安全です。

食品ロス出さないための工夫

1. 買いすぎ、作りすぎをせず冷蔵庫は空き間をあけて7割程度入るようにして利用する。
2. すぐ取り出せるようにする。
 - ・定位置を決めておく。
 - ・中身が見えるようにガラスの容器等に入れる。
 - ・ラベリングする。
 - ・定期的に清掃する。

生ごみ処理について

野菜くず等は生ごみ処理器に入れて土に戻すと、とても良い土ができ野菜や花等が立派に育ちます。

段ボールで作ったり、庭の隅に本格的に作りつけたりして作ります。

処理器の一番下に土、次に野菜くず等を入れる。米ぬかやEM菌を入れた上に土をかぶせ、きっちりと蓋をする。EM菌を入れない方法もあります。

衣類のポイ捨てをやめる工夫

1. 衣類を購入するときは、長期に着用できるものを購入する。
2. 流行に踊らされたりして買い過ぎない。着たい服、着れる服をもつ。
3. 適正な価格で購入する。衣類を作っている人の人件費も考えたいと思いますし、安いものを買ってポイと捨てたら、ごみになりますし、それを処分するための費用もかかります。
4. 丁寧に着用する。合わなくなったら補

※婦人之友1931年12月号に「塵芥の座談会」として当時の東京市の衛生関係者、高田市長、友の会役員8人による対談が掲載されています。すでに90年前に、友の会は「ごみ問題」に取り組んでいました。それを受け継いで私達会員も自分達でできるSDGs（写真3）について取り組んでいます。一人ひとりの力は小さくても、沢山の人の手で実行していけば、大きな力となると思います。これからも、しっかりごみ問題に取り組んでまいります。

- 正をする。
5. 着用しなくなったものは、他のものに取りかえる。
浴衣からパジャマを作りましたが浴衣はとても着心地がよく夏のパジャマとして活用しました。浴衣地を見直しました。
6. ネクタイでオモチャの蛇を作ったり、バッグも作ります。
7. タオル類は雑巾にします。
8. セールに出して着てもらおう。
9. 夏物衣類は海外で使ってもらおう。
10. ごみに出す前に何か使えないか工夫する。車拭き、マットetc。



写真2 ネクタイの柄々へび

布ナプキンの利用

子供のパジャマや綿製品から作れます。女性がナプキンを使うとして枚数を計算してみました。

（ナプキン）×5日×12か月×40年
= 12,000枚
尿漏れにも使うとして

（ナプキン）×30日×12か月×30年
= 10,800枚

女性のごみ対策としてもぜひ布ナプキンを使って欲しいと思います。

作り方の講習会もしましたが、参加者が少なくまだ知られてないと思いました。

あちこちに配布しています。

使ってみての感想として

- ・経血量が少なくなった。
 - ・痛みを感じなくなった。
 - ・日数が減った。
 - ・かゆみがなく快適に生活することができたとの報告があります。
- ぜひ使ってほしいと思います。



写真3 私のSDGs